

Partial Translation

(Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 6-74507)
[0011] On the upper edge of a rear opening 2 of a vehicle body 1, a screen storage casing 23 is provided via overhang mechanisms 22. That is, as shown in FIG. 3, the overhang mechanisms 22 have support plates 24, fixedly attached to the left and right ends of the upper edge of the rear opening 2. The support plates 24 each has formed therein a U-shaped guide hole 25, of which the front and rear ends are latch holes 26 and 27, respectively. To each of the support plates 24, the upper end of a support arm 28 is attached by a pin 29. The support arm 28 is hollow and has a long hole 30, formed on the left or the right side of the middle part of and along the axis line of the support arm 28.

(11) 实用新案出願公開番号

実開平6-74507

(43)公開日 平成6年(1994)10月21日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 R 11/00		8012-3D		
B 6 0 P 3/00	Z	7336-3D		
G 0 3 B 21/58		7256-2K		

審査請求 未請求 請求項の数 1 FD (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平5-20831

(22)出願日 平成5年(1993)3月31日

(71)出願人 000226611

日産車体株式会社

神奈川県平塚市天沼10番1号

(72) 考案者 三好 祥朗

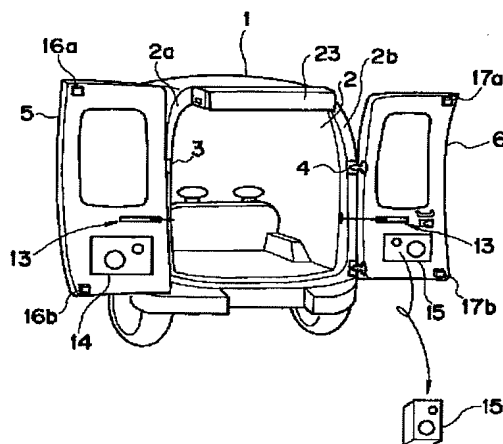
神奈川県平塚市天沼10番1号 日産車体株式会社内

(54)【考案の名称】 車両用スクリーン取付装置

(57) 【要約】

【目的】 広い画面のスクリーンを安定して張ることができるし、スクリーンの持ち運びが便利になる車両用スクリーン取付装置を提供することである。

【構成】 少なくとも１８０度に観音開きで解放可能な左右の扉５、６に、左右に展開可能なスクリーン３５の骨格部材（支持杆３８）および骨格部材４１に、左右の扉５、６の開き時に、左右の扉１５、１６の上、下側隅部のドアロックのラッチ機構１６ａ、１７ａ、１６ｂ、１７ｂに係止されるラッチ係止機構３６ａ、３７ａ、３６ｂ、３７ｂを設けたものである。



1 車体
2 開口部
5 左の扉
6 右の扉
16a,17a 上部のラッチ機構
16b,17b 下部のラッチ機構
23 スクリーン収納体
35 スクリーン
36a,37a 上部のラッチ係止機構
36b,37b 下部のラッチ係止機構

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 車体の開口部に設けた左右の扉を、観音開きに少なくとも 180 度解放可能にした車両において、前記開口部の上縁部にスクリーン収納体を設け、このスクリーン収納体に折り畳み状態で巻き取り、引き出し可能なスクリーンと、伸縮可能な骨格部材を左右に設け、スクリーンの先端の左右には伸縮可能な支持部を設け、左右の扉の上部にラッチ機構を、左右の扉の下部に下部のラッチ機構と、左右の骨格部材の端部に上部のラッチ係止機構と左右の支持杆の端部に下部のラッチ係止機構を設け、前記それぞれのラッチ機構に前記それぞれのラッチ係止機構に係止可能としたことを特徴とする車両用スクリーン取付装置。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案に係わる車両用スクリーン取付装置を備えた車両の後部の斜視図である。

【図 2】 開閉案内機構の斜視図である。

【図 3】 スクリーン収納体の張り出し機構の一部省略した斜視図である。

【図 4】 スクリーンの展開状態の斜視図である。

10

20

2

【図 5】 上部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合前の斜視図である。

【図 6】 上部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合状態の斜視図である。

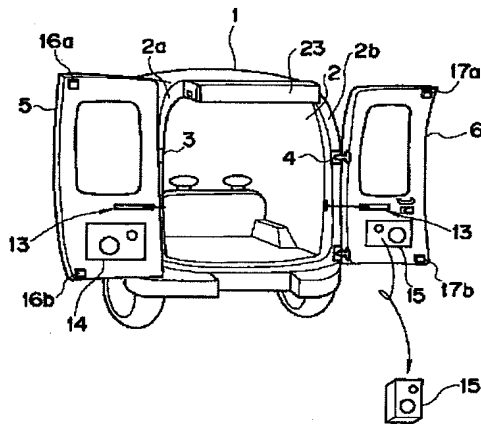
【図 7】 下部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合前の斜視図である。

【図 8】 下部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合状態の斜視図である。

【符号の説明】

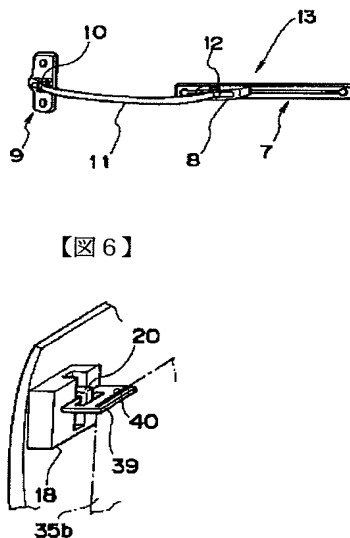
- 1 車体
- 2 開口部
- 5 左の扉
- 6 右の扉
- 16a、17a 上部のラッチ機構
- 16b、17b 下部のラッチ機構
- 23 スクリーン収納体
- 35 スクリーン
- 36a、37a 上部のラッチ係止機構
- 36b、37b 下部のラッチ係止機構

【図 1】



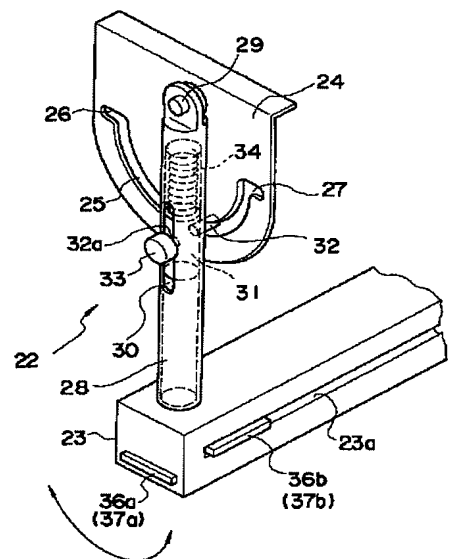
- 1 車体
- 2 開口部
- 5 左の扉
- 6 右の扉
- 16a, 17a 上部のラッチ機構
- 16b, 17b 下部のラッチ機構
- 23 スクリーン収納体
- 35 スクリーン
- 36a, 37a 上部のラッチ係止機構
- 36b, 37b 下部のラッチ係止機構

【図 2】

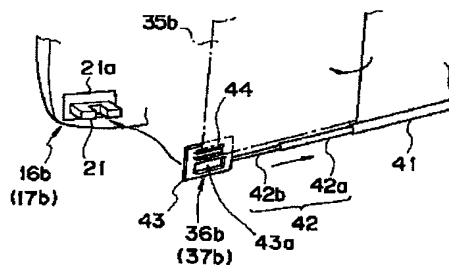


【図 6】

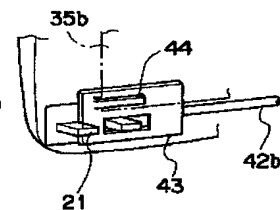
【図 3】



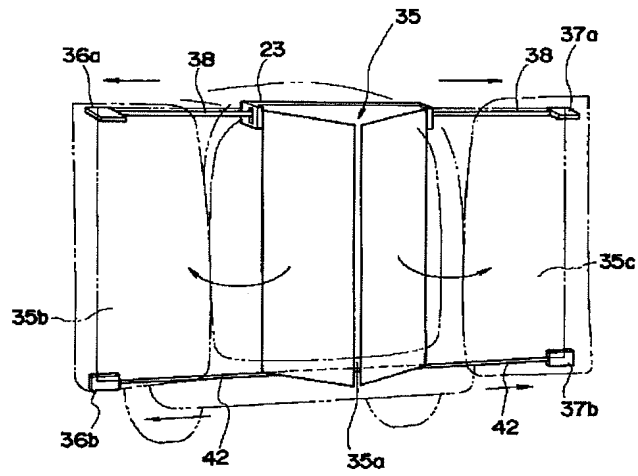
【図 7】



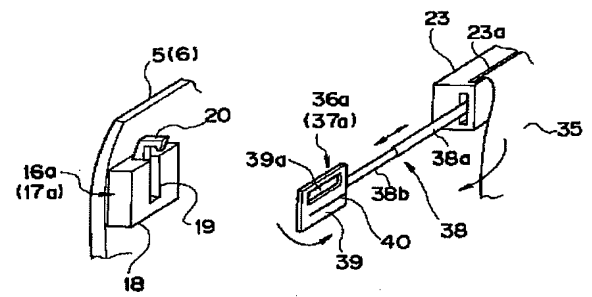
【図 8】



【図4】



【図5】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、キャンプ等、戸外で大勢でビデオを観賞する場合に使用される車両用スクリーン取付装置に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来のこの種の車両用スクリーン取付装置としては、スクリーンを巻き取り式にしてこのスクリーンを三脚で支持するようにしたものがある。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記従来の車両用スクリーン取付装置として、スクリーンを巻き取り式にしてこのスクリーンを三脚で支持するようにしたものでは、車体幅より広い画面のスクリーンを安定して張ることができず、また、持ち運びが不便であるという問題点があった。

【0004】

本考案は、上記の問題点に着目して成されたものであって、その目的とするところは、広い画面のスクリーンを安定して張ることができるし、スクリーンの持ち運びが便利になる車両用スクリーン取付装置を提供することにある。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記の目的を達成するために、本考案は、車体の開口部に設けた左右の扉を、観音開きに少なくとも180度解放可能にした車両において、前記開口部の上縁部にスクリーン収納体を設け、このスクリーン収納体に折り畳み状態で巻き取り、引き出し可能なスクリーンと、伸縮可能な骨格部材を左右に設け、スクリーンの先端の左右には伸縮可能な支持部を設け、左右の扉の上部にラッチ機構を、左右の扉の下部に下部のラッチ機構と、左右の骨格部材の端部に上部のラッチ係止機構と左右の支持杆の端部に下部のラッチ係止機構を設け、前記それぞれのラッチ機構に前記それぞれのラッチ係止機構に係止可能としたことを特徴とする。

【0006】

【作用】

かかる構成により、左右の扉を、少なくとも180度解放した後、スクリーン収納体から左右の骨格部材を伸長させ、上部のラッチ係止機構を左右の扉の上部のラッチ機構にそれぞれ係止する。そして、スクリーン収納体から折り畳み状態のスクリーンを引き出し左右に展開して広げるとともに、スクリーン先端の左右の支持杆を伸長させ、下部のラッチ係止機構を左右の扉の下部のラッチ機構にそれぞれ係止することにより、スクリーンを、開いた左右の扉に装着する。スクリーンの収納はこの逆操作を行う。

【0007】

【実施例】

以下、本考案の一実施例を図面に基づいて説明する。図1は本考案に係わる車両用スクリーン取付装置を備えた車両の後部の斜視図、図2は開閉案内機構の斜視図、図3はスクリーン収納体の張り出し機構の一部省略した斜視図、図4はスクリーンの展開状態の斜視図、図5は上部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合前の斜視図、図6は上部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合状態の斜視図、図7は下部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合前の斜視図、図8は下部のラッチ機構とラッチ係止機構との結合状態の斜視図である。

【0008】

車体1の後側開口部2には、これの左、右側縁部2a、2bにヒンジ部材3、4を介して左右の扉5、6が観音開きで解放可能に取り付けてある。そして、左右の扉5、6は車体1に図2に示す開閉案内機構13で、その開度が規制されていて、少なくとも180度解放可能にしてある。

【0009】

この開閉案内機構13はレール部材7を備えており、レール部材7は左右の扉5、6の内面部に水平状態で取り付けてあり、このレール部材7にはスライダー8が移動可能に設けてある。後側開口部2の左、右側部にはブラケット9が固着しており、このブラケット9にピン10によりアーム11の基端部が連結しており、アーム11の先端部は前記スライダー8にピン12で連結してある。

【0010】

そして、左右の扉5、6の内面下部には、車載品であるスピーカー14、15が着脱可能に取り付けてある。また、左右の扉5、6の上、下側隅部にはドアロック用の上、下部のラッチ機構16a、17a、16b、17bが固着してある。そして、上部のラッチ機構16a、17aは図5に示すように扉5、6に固着されたラッチ本体18を有し、このラッチ本体18には縦に溝部19が形成してあり、ラッチ本体18には前記溝部19内を上下方向に移動するラッチ20が設けてある。下部のラッチ機構16b、17bは図7に示すようにベース21aに二股状のラッチ21を突設させたものである。

【0011】

車体1の後側開口部2の上側縁部には張り出し機構22を介してスクリーン収納体23が設けてある。すなわち、この張り出し機構22は図3に示すように後側開口部2の上側縁部の左右に固設された支持プレート24を備えており、これらの支持プレート24にはU字形状のガイド孔部25が形成してあり、このガイド孔部25の前、後端部は係止用孔部26、27になっている。そして、支持プレート24には支持アーム28の上端部がピン29で取り付けられてあり、この支持アーム28は中空であって、その中間部の左右には支持アーム28に軸線に沿う長孔30が形成してある。

【0012】

そして、支持アーム28内にはスライダー31が摺動可能に挿入してあり、このスライダー31にはガイドピン32が取り付けられてあって、このガイドピン32の内側部は内側の長孔30を貫通して前記ガイド孔部25に挿入してあり、また、ガイドピン32の外側部32aは外側の長孔30を貫通していて、その端部に摘み33が取り付けられてある。前記支持アーム28内にはスプリング34が収容してあって、このスプリング34により前記スライダー31は下方向に付勢されている。そして、前記支持アーム28の端部に前記スクリーン収納体23が取り付けられてある。

【0013】

このスクリーン収納体23内にはリール（図示せず）に巻き取られた状態でス

クリーン35が収納してあり、このスクリーン35はスクリーン収納体23の上部の出入口23aから下方に引き出し可能である。スクリーン35は、中央スクリーン部35aの左右に左、右側スクリーン部35b、35cを折り畳み可能に設けたものであり、スクリーン35は、中央スクリーン部35aの左右に左、右側スクリーン部35b、35cを折り畳んだ状態でリールに巻き取られている。

【0014】

前記スクリーン収納体23には、このスクリーン収納体23内から左、右方に突出可能に上部のラッチ係止機構36a、37aが設けてあり、また、スクリーン35の下部にはラッチ係止機構36b、37bが設けてある。

【0015】

上部のラッチ係止機構36a、37aはラッチ係止体39を備えており、このラッチ係止体39にはスクリーン35の端部を差し込み固定するスリット状のスクリーン固定部40が形成してある。また、ラッチ係止体39には上部のラッチ機構16aのラッチ20に係止される係止孔39aが形成してある。そして、前記スクリーン収納体23内に格納可能な骨格部材である支持杆38は、基杆部38aに対し先杆部38bが出し入れ可能にかつ回転可能になされて全体が伸縮可能になっており、先杆部38bの先端部に前記ラッチ係止体39が取り付けられている。

【0016】

また、下部のラッチ係止機構36b、37bはラッチ係止体43を備えており、このラッチ係止体43にはスクリーン35の端部を差し込み固定するスクリーン固定部44が形成してある。また、ラッチ係止体43には下部のラッチ機構16bのラッチ21に係止される係止孔43aが形成してある。そして、スクリーン35の先端部の骨格部材41内に格納可能な支持杆42は、基杆部42aに対し先杆部42bが出し入れ可能にかつ回転可能になされて全体が伸縮可能になっており、先杆部42bの先端部には前記ラッチ係止体43が取り付けられている。前記スクリーン収納体23は、スクリーン35を巻き込んだ状態で張り出し機構22を介して車体内に位置している。この場合、張り出し機構22のスライダー31のガイドピン32がガイド孔部25の前端部の係止用孔部26に挿入されてい

る。

【0017】

次に、上記のように構成された車両用スクリーン取付装置の作動を説明する。左右の扉5、6を観音開き式に開くと、開閉案内機構13のスライダー8がレール部材7を外側に移動し、左右の扉5、6を180度の開度に保つ。次に、前記スクリーン収納体23を張り出し機構22を介して車体1外に張り出す。この場合、張り出し機構22のスライダー31のガイドピン32はガイド孔部25の後端部の係止用孔部27に挿入される。

【0018】

この状態で、スクリーン35を下方に引き出し、中央スクリーン部35aに対して左、右側スクリーン部35b、35cを左右に展開し、左、右側スクリーン部35b、35cの左、右側の上端部を、上部のラッチ係止機構36a、37aのラッチ係止体39のスクリーン固定部40に差し込み固定し、また、左、右側スクリーン部35b、35cの左、右側の下端部を、下部のラッチ係止機構36b、37bのラッチ係止体43のスクリーン固定部44に差し込み固定する。

【0019】

次に、前記支持杆38をスクリーン収納体23から左、右方に引き出して、上部のラッチ係止機構36a、37aのラッチ係止体39の係止孔39aを上部のラッチ機構16a、17aのラッチ20に引っ掛けてこのラッチ20をラッチ本体18の前記溝部19内を上方向に移動させて固定する。また、前記支持杆42をスクリーン35から左、右方に引き出し、下部のラッチ係止機構36b、37bのラッチ係止体43の係止孔43aを下部のラッチ機構16b、17bのラッチ21に係止する。

【0020】

したがって、前記スクリーン35はその左右の上、下部が左右の扉5、6に保持されて張られた状態になり、車外に設置されたビデオ（映写機）からの映像が投影される。

【0021】

上記の実施例によれば、車体幅より広い画面のスクリーン35を安定して張る

ことができるし、また、スクリーン35の三脚が不要になって持ち運びが便利になるし、また、扉5、6の開度を変えることにより距離ができてステレオ感が増し立体音響が可能になるし、さらに、スピーカー14、15を車載品を使用することで安価になる。

【0022】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案は、車体の開口部に設けた左右の扉を、観音開きに少なくとも180度解放可能にした車両において、前記開口部の上縁部にスクリーン収納体を設け、このスクリーン収納体に折り畳み状態で巻き取り、引き出し可能なスクリーンと、伸縮可能な骨格部材を左右に設け、スクリーンの先端の左右には伸縮可能な支持部を設け、左右の扉の上部にラッチ機構を、左右の扉の下部に下部のラッチ機構と、左右の骨格部材の端部に上部のラッチ係止機構と左右の支持杆の端部に下部のラッチ係止機構を設け、前記それぞれのラッチ機構に前記それぞれのラッチ係止機構に係止可能としたから、左右の扉を、少なくとも180度解放した後、スクリーンを左右に展開して広げて、スクリーンの骨格部材に設けたラッチ係止機構を左右の扉の上、下側隅部のドアロックのラッチ機構に係止することにより、スクリーンを左右に開いた扉に装着することができる。

【0023】

したがって、車体幅より広い画面のスクリーンを安定して張ることができるし、また、スクリーンの三脚が不要になって持ち運びが便利になる。